

畑雑草の幼植物 (11) イヌノフグリ類

(独)農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業総合研究センター 浅井元朗

オオバコ科クワガタソウ属 (旧ゴマノハグサ科) は日本では在来種, 侵入種あわせ数種が耕地, 草地に生育し, 多くは冬生一年生の生活史をもつ。全国の畑地, 芝地, 路傍などで普通に見られるオオイヌノフグリ *Veronica percica* は明治期に欧州から日本に侵入した種である。同じく欧州原産のタチイヌノフグリ *V. arvensis* もほぼ同様の立地に生育するが, オオイヌノフグリほどは目立たない。かつては普通種であった在来のイヌノフグリ *V. polita* は, オオイヌノフグリの分布しない石垣や離島など限られた立地でのみ生育している。ムシクサ *V. peregrina* も在来種で, 本州以南のやや湿った立地に生育する。フラサバソウ *V. hederifolia* も欧州原産で, 暖地ではムギ類の害草となる。1940年代に侵入が確認された欧州原産の外来種コテングクワガタ *V. serpyllifolia* は多年生で北日本の芝地などに広がっている。

クワガタソウ属の草本の子葉はいずれも無毛で多肉質である。オオイヌノフグリの子葉は広卵形で長さ約5mmである (写真-1)。タチイヌノフグリの子葉は同形だが長さ約2mmである (写真-2)。イヌノフグリは上記2種より幅狭く三角状, 長さは約2mmである (写真-3)。ムシクサの子葉は狭卵形で長さ約3mm (写真-4)。フラサバソウの子葉はこれらに比べて大きく長さ約10mmの卵形~だ円形で (写真-5), 花期まで残るのが特徴である。コテ

ングクワガタの子葉は長さ2mmの広卵形である (写真-6)。

クワガタソウ属の葉は幼植物では対生し, 生育後期または茎上部では互生する。オオイヌノフグリ, タチイヌノフグリ, イヌノフグリの葉は縁に数個の鋸歯があり, 表面に白毛がある (写真-7, 8, 9)。オオイヌノフグリは葉柄が長く, 茎基部は地を這うように生育する (写真-7)。タチイヌノフグリの葉はオオイヌノフグリに比べ小さく, 基部で分枝した茎は上部で直立する (写真-8)。イヌノフグリの葉はオオイヌノフグリに比べ小さく, 鋸歯が少ない (写真-9)。ムシクサの植物体はほぼ無毛で, 茎下部の葉は狭卵形~披針形である (写真-10)。フラサバソウは植物体全体に毛が目立ち, 鋸歯は少ないが目立つ (写真-11)。コテングクワガタの葉は無毛で, 鋸歯は目立たない (写真-12)。

クワガタソウ属は花弁が4裂する合弁花を葉腋に1個ずつつけ, 2本の雄ずいがある。オオイヌノフグリは花柄が葉柄より長く, 径1cmほどある瑠璃色の花は早春から目立つ (写真-13)。タチイヌノフグリは花柄がなく, 青紫色の花も小さく目立たない (写真-14)。イヌノフグリの花は淡紅色で花柄は短い (写真-15)。ムシクサの花は白色で花柄はごく短い (写真-16)。フラサバソウの花は淡青紫色で裂片の幅が狭い (写真-17)。コテングクワガタは白色の花弁に紫色の筋が目立つ (写真-18)。



写真-1 オオイヌノフグリの
の子葉。



写真-2 タチイヌノフグリの
の子葉。



写真-3 イヌノフグリの子葉。



写真-4 ムシクサの子葉。

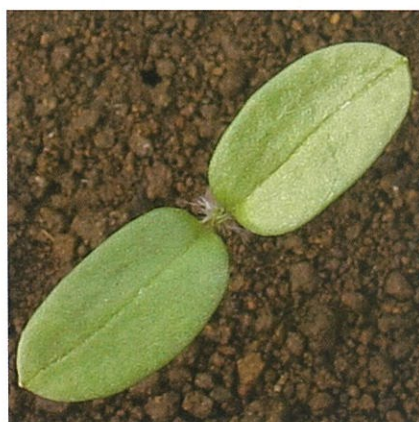


写真-5 フラサバソウの子葉。



写真-6 コテングクワガタ
の子葉。



写真-7 オオイヌノフグリ幼植物。

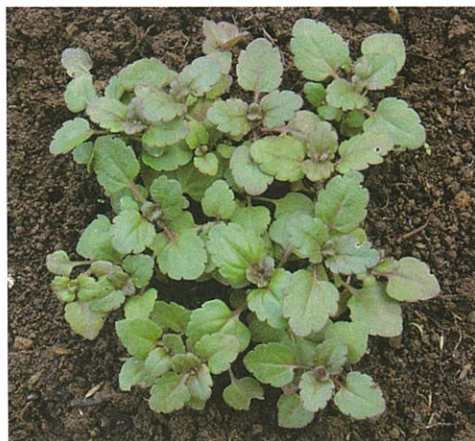


写真-8 タチイヌノフグリ幼植物。



写真-9 イヌノフグリ幼植物。



写真-10 ムシクサ幼植物。



写真-11 フラサバソウ幼植物。



写真-13 オオイヌノフグリ
の花冠。



写真-14 タチイヌノフグリ
の花序。



写真-15 イヌノフグリ
の花冠。



写真-16 ムシクサの花序。

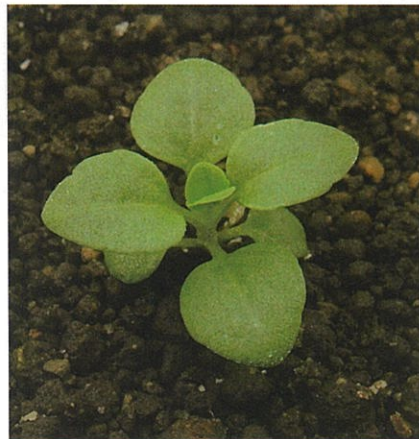


写真-12 コテングクワガタ幼植物。



写真-17 フラサバソウ
の花冠。



写真-18 コテングクワガタの花序。